

地力窒素分析による収量向上、施肥コスト低減

○土壌の地力窒素（水田・畑）を簡易に測定できる方法が開発され、全農の土壌分析センター※や現地で診断ができる。（※県によっては対応していません）

○地力窒素含量に応じて、施肥量を増減することで、収量向上または減肥が可能となる。

- ・持続可能な環境調和型農業への貢献： 化学肥料の削減
- ・生産者に与える影響： 収量向上、肥料費削減による物財費低減

分析法の概要（畑）

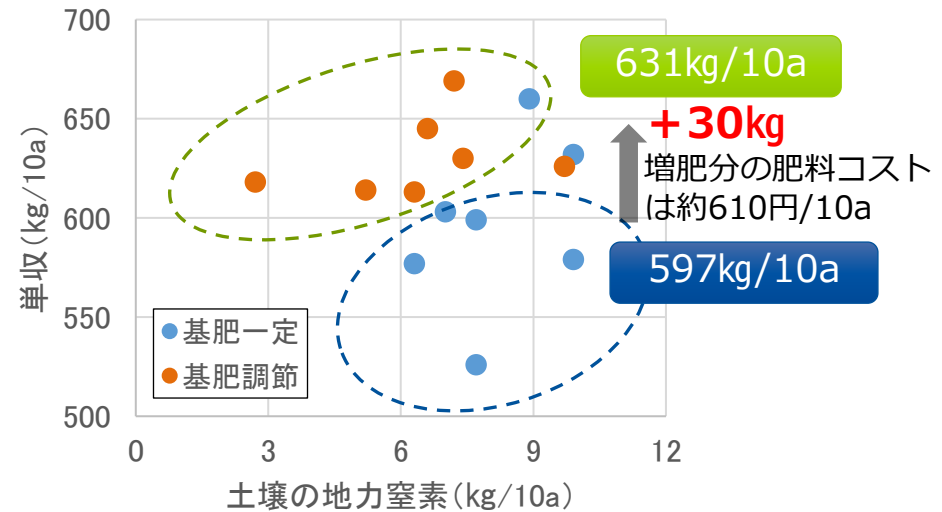
- ① 土壌を採取
- ② 土壌を容器に測り取る
- ③ 80℃のお湯を加える
- ④ 80℃で16時間保温する
- ⑤ ろ過液を採取
- ⑥ パックテスト（現場）又は機器（分析センター）で測定



農研機構マニュアル

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/narc_available_N_paddy_man.pdf <水田>

https://www.naro.go.jp/laboratory/carc/result_digest/files/snmanu.pdf <畑>



地力窒素に応じて基肥量を調節することによる増収
（R4年度、石川県：ひやくまん穀14圃場で検証）

活用の方法・事例

- ◆ 多収品種（ひやくまん穀）で地力窒素含量（mg/100g≒kg/10a）と基肥窒素施肥量が18～20kg/10aとなるように基肥施肥量を調節した。（右上の事例）
- ◆ 地力増進基本指針では、水田の地力窒素の改良目標値は8～20mg/100gのため、8mgを下回る場合は増肥する。（根本的には堆肥等による土づくりが重要）
- ◆ 数値の活用について示している県が増えているので参考にできる。（茨城、鹿児島、富山、滋賀）